

## BEAUTY NOTE

2017年春夏のメーキャップトレンドは、  
透明感の中にもモード感を感じさせる、軽やかで大胆な「ロマンティックエッジ」

資生堂ビューティークリエーションセンター※1では、1987年より、メイクやヘアの未来を探る「ビューティートレンド研究※2」を行っています。ビューティートレンドは、ファッションや世相とも密接に関係しているため、同センターでは、街頭調査や雑誌の傾向、世界のコレクション情報などを収集し、それらを総合的に分析したうえで、最新のメイク、ヘアの傾向を探り出しています。今回は、資生堂ビューティートレンド研究チームのヘア&メーキャップアーティスト渋沢知美と谷口文児が、2017年春夏のトレンドの傾向を解説。時代の気分にあった旬のメイクとヘアのポイントをご紹介します。 ※1,2については最終ページ参照

■資生堂ヘア&メーキャップアーティスト Web サイトでも情報発信しています。

<http://hma.shiseidogroup.jp/?p=11065>

## 2017年春夏のトレンド

2017年春夏グローバルコレクションでは、2016年秋冬からのトレンドで装飾性の高い“足し算”傾向が継続。特にこの春夏に顕著なのは、量感のあるゆったりとしたボリュームやアンバランスなシルエットなど、いずれもドラマチックなファッションを楽しむ傾向です。

コレクションのメーキャップは、「軽さ×大胆さのバランス」がキーポイント。その流れが反映され、フェミニン×ナチュラルなど、「盛り」と「抜け」を自在に組み合わせたルックが多数登場。ヘアスタイルでは、くせ毛のようなウェーブ、手ぐしで整えたような究極のナチュラルスタイルなど、モデルの個性に合わせた無造作な表現が多く見られました。



<2017年 春夏 NY コレクションより>

2016 年秋冬に実施した街頭調査では、赤リップなどのブライトリップの流行が定着し、長く続いたナチュラルリップメイクの波が収束。ブライトリップに加え、グリッターやラメを使ったアイメイクが増え、新鮮味のあるメーキャップを楽しみたい、というムードが高まっています。

これらの傾向を踏まえ、資生堂ビューティートレンド研究チームが提案する春夏のトレンドメーキャップは、ロマンティックなのに甘すぎず、透明感の中にもややモード感を感じさせる「ロマンティックエッジィ」なメーキャップです。ポイントは全部を「盛る」のではなく、「盛る」と「抜く」のバランス感覚。春夏らしい旬カラーのピンクを取り入れれば、今季らしさがいっそう際立ちます。

## 2017 年春夏トレンドヘア&メーキャップポイント

◆2017 年春夏のトレンドヘア&メーキャップは、軽やかで大胆な「ロマンティックエッジィ」

### メーキャップポイント①

#### 目もとにはラメのキラキラ感を

まぶたの輝きを際立たせるため、あえてアイラインは入れず、ラメの入ったクリームシャドーをアイホール全体にきかせます。まつ毛を根元からしっかりカールアップさせ瞳に光を入れ、ボリュームタイプのマスカラをたっぷり塗り輝きのある目もとに。

### メーキャップポイント②

#### 明るいピンクリップで「攻める」

明るさのあるペールピンクリップは、ツヤのあるタイプをチョイス。輪郭はとらず内側から塗りひろげ、ロマンティックな雰囲気。

### ヘアのポイント

#### 無造作スタイルに存在感あるヘアアクセを

今季の流行であるグレイジュカラーでラフな外国人風スタイルに。SNS 映えを狙うリップは、あえてアシンメトリーにつけ、大胆さと無造作感を強調します。



本情報は、国内女性誌、国内外の主要都市での街頭調査、2017 年春夏のグローバルコレクション情報の調査結果をもとに分析・予測しています。



### ベースメーキャップ

ツヤの出る下地を使い、薄づきのファンデーションで素肌を生かすように軽めに仕上げます。チークも自然な血色感をプラスする、肌なじみの良い色を選びましょう。

### 目もと

キラキラとしたラメ感のあるクリームシャドーをアイホール全体にぼかします。ラメ感を際立たせることで、透明感のある目もとを演出します。目をはっきりさせたい場合は最後にブラウンのアイシャドーでまぶたの際をぐっと引きしめてあげましょう。まつ毛をしっかりカールアップし、瞳に光を入れるようにします。アイライナーは入れずに、黒のマスカラを上下のまつ毛にたっぷり。まつ毛のボリュームと毛束感を強調することで、甘さの中にもさりげなくモード感を表現します。



### 眉

太眉ブームは収束し、自然な太さが主流になっています。毛流れを整え、足りないところを描き足し仕上げます。

### 口もと

昨年から続く赤リップの流行を受け、鮮やかなブライトリップが主流に。この春、秋冬に流行った深みのある色から、春夏らしい明るめのピンクへと流れが変わります。

ピンクの幅は非常に広く、明るめから、青みの強いフューシャピンクまでバリエーションが豊富。ファッションや個性に合わせ、自分らしいピンクを見つけて楽しむのが今の気分です。唇の輪郭をとらず、ツヤ感のあるリップを内側からぼかし塗り広げると、より春夏っぽい軽さのある口もとになります。



### ◆プロフィール 渋谷知美 TOMOMI SHIBUSAWA



資生堂ヘア&メーキャップアーティスト。ビューティークリエイションセンター所属。国内外のコレクション(NY、パリ、東京)の経験を生かし、宣伝広告、広報活動で活躍。担当ブランドは「SHISEIDO」「Za」。ヘア&メーキャップスクール「SABFA<sup>※3</sup>」の講師も務める。

Web サイト: <http://hma.shiseidogroup.jp/shibusawa/>

**2017年春夏トレンドヘアは、「透明感×遊び心」**

昨シーズンから見られた「作りこまないラフなスタイル」の傾向は今シーズンも継続。くせ毛っぽく見える自然なウェーブ、顔にハリとかかるおくれ毛など、何気ない「ラフさ」にこだわるトレンドは変わりません。

今季は、そんな無造作なスタイルに、大胆なアイテムでキャッチーな演出をプラス。また、ここ最近落ち着いていたヘアカラーの流行が久々に復活。明るいグレイージュカラーに注目です。透明感のある外国人風の柔らかいニュアンスのある髪色で、「無造作」「ラフ」「ナチュラル」なスタイルに「軽さ」と「透明感」をプラスするのが特徴といえるでしょう。

この春のおすすめは、ラフで軽快なアレンジスタイル。グレイージュにカラーリングした髪にくせ毛風のゆるいウェーブをつけ、顔周りのおくれ毛と隙間をつかった前髪で、軽さと無造作感を表現。ナチュラルなウェーブは、毛束を軽くねじりながらヘアアイロンに巻き付けるのがポイント。大きめのクリップを左右非対称になるように大胆にとめれば、SNS 映えする今っぽいヘアスタイルが完成です。

**◆プロフィール 谷口 丈児 JOJI TANIGUCHI**

資生堂ヘア&メーキャップアーティスト。サロンワークを経て、国内外のファッションショーや撮影などのヘア&メイクを中心に活動。資生堂「UNO」の商品開発・ソフト情報の作成にも携わる。2015年 JHA(ジャパン・ヘアドレッシング・アワード)新人部門最優秀新人賞受賞。

Web サイト: <http://hma.shiseidogroup.jp/taniguchi/>

### ※1 資生堂ビューティークリエイションセンター

ヘア&メーキャップアーティストが約40名在籍し、宣伝広告のヘア&メーキャップ、メーキャップ商品のカラークリエイションをはじめ、NY、パリ、東京などで開催されるファッションショーのバックステージで活動し、最先端のトレンド情報をグローバルに発信している。

◆ビューティークリエイションセンター Web サイト:<http://hma.shiseidogroup.jp/>

### ※2 資生堂のビューティートレンド研究

資生堂では、1987年に「ビューティートレンド研究」をスタートさせ、美容・ファッションの動向を分析し、未来のビューティートレンドを予測している。ヘア&メーキャップアーティストを抱える強みを活かし、具体的なメーキャップ、ヘアスタイルを提案する資生堂独自の取り組みで、未来のトレンドをいち早く予測し、商品開発やマーケティングに役立てている。

### ※3 SABFA(サブファ)

資生堂が運営するプロのヘア&メーキャップアーティストを育成するスクール。1986年に設立し、卒業生は、広告・TVCF・雑誌の撮影やファッションショーなどの第一線で活躍しているほか、美容サロンでは、ヘア&メーキャップのエキスパートとして、お客さまのトータルビューティーを提案している。学校名は、「Shiseido Academy of Beauty & Fashion」の頭文字に由来する。

◆SABFA Web サイト:<http://sabfa.shiseido.co.jp>